



市民からの声を行政に

行政相談委員 多田 弘子さん

行政についての困りごと（要望や苦情）、手続きに関する問い合わせなどの相談を受け、解決のための助言をしたり、関係行政機関への報告を行う行政相談委員。今回は、平成11年から18年間、行政相談所で市民からの相談を受け、市民と行政のパイプ役をされている多田弘子さんにお話を伺いました。

行政相談委員として

平成11年に市役所から話を受け行政相談委員に就任された多田さん。当時、そんな仕事があるということも知らなかったが、新たな世界を知ることができるとチャンスと思って引き受けたという前向きな考え方の持ち主。行政相談委員の仕事は、行政相談所の開設だけでなく、京都市内の京都行政評価事務所に府下の相談員が集まり、それぞれの活動状況の報告や問題案件の討議をしたり、研修を受けることもあるそうだ。

どんな相談を受けるのか聞いてみると、「私たちが相談を受けてすぐに解決できることはそうありません。一緒に担当課に行って話をすることもありますが、話を聞くだけのことも多いです。でも相談内容は一般的には大きなことでなくても本人にしたら大きな問題なので、最後まで『聞く』ことが仕事だと思っています。話ができる人が周りにいない人も多いですから、聞くだけでもずいぶん気持ちが悪くなるよかったです」と答えてくれた。

相談された中で実際に改善されたことは、国勢調査の配布書類に「拡大文字調査票」が

あることの記載がされるようになったことだ。国勢調査の調査票の文字が小さくて記載に苦労したという高齢者からの苦情を受け、調べると、拡大文字調査票は用意されていたのにそのことが記載されていなかったため、利用されていなかったそうだ。このように市民からの意見が取り入れられ改善されることにやりがいを感じ、また、相談者を受け入れ、寄り添うことの大切さも感じるという。

社会での女性の活躍

行政相談委員になる前、多田さんは舞鶴農業協同組合東支店で、中丹では初の女性支店長。当時は、資格でも仕事でも男性と同等では男性が役職に用いられたため、常に男性の上を上をと目指したという。管理職になるには本人の意欲と覚悟も必要だが、家族の理解がないと無理だったと。一人の上立つには、自分が言うだけのことをした上で人に言わなければ誰もついてきてくれないし、一人で突っ走ってもだめ。部下を育てることを常に考えて仕事をしてきました。部下を育てる事については今も同じですが、それ以外はもうそんな時代ではないです。家事や子育てを担っている

行政相談委員の存在を周知させたい

多田さんが相談委員に就任した頃は、京都府下は全国でも女性相談委員が少なかったが、今は84人中35人が女性で全国でも上位だ。「舞鶴には私を含め3人の行政相談委員がいます。行政相談所に気軽に来てもらい、どんどん活用してほしいです。行政相談委員のことを知らない人が多いので、こんな場所もあるんだと伝えたいです」と話してくれた。

広報まいづるのカレンダーに毎月、第2火曜日「巡回市民・行政相談」の日があります。行政についての困りごとの相談や手続きの問い合わせなどあれば、行政相談委員さんに相談してみたいかがでしょうか。

※行政相談委員…行政相談委員法に基づき、総務大臣から委嘱されたボランティア。10月16～22日は行政相談週間です。

まいづる
花図鑑

新潟県から鳥取県の日本海側の林の下に生える常緑の小低木。枝は地面近くを這って伸び、先は立ち上がる。葉は対生し、長さ6～12センチの披針形から長楕円形で先は尖り、縁には細かい鋸歯がある。夏、今年枝の葉腋から垂れ下がった花柄を出し、暗紫色の花を数個付ける。果実は丸く径8ミリほどで赤く熟したら裂けると橙赤色の仮種皮に包まれた種子が出る。名前の由来は、紫色の花が咲くマユミの意。マユミの語源は昔マユミの木で作ったことから。京都府絶滅危惧種。

【協力】 瓜生勝朗

市文化財保護委員(植物分野)



ムラサキマユミ
(ニシキギ科)

見ごろ 10～11月頃

